

て尽力くださった先生は、県教委内でいまや「飼育動物の〇〇」と呼ばれるほど見識を深め、県教委と獣医師会の協力関係の要となってくださっています。これは、研修会の大きな成果の一つだと思います。



ここで築かれた信頼関係を基に、獣医師会はアンケートの結果を教育委員会に報告し、今後の連携の仕方について話し合いました。今までのモデル校を選定するやり方では不十分だと認識から、以下のようなことが県教委から各教育事務所、地教委に示され、平成17年度のスケジュールの調整が行われているところです。

a 研修会の目的

学校における小動物の飼育及び学習中の小動物の取り扱い、小動物を取り巻く環境等の現状にふまえ、学校の小動物の健全な飼育の条件整備や病気への対応等に関する共通理解を通して、学校教育における望ましい動物飼育を推進するとともに、命ある生き物に対する豊かな心を育む教育の推進に資する。

b 研修内容

- ・学校教育における動物飼育の意義及びねらい
- ・学校における小動物等の飼育を通した「命の教育」及び「豊かな心を育む教育の在り方」の具体化
- ・学校における小動物の適切な飼育方法と傷害疾患等への対応のあり方 等

c 研修方法等

- 各教育事務所、市町村、地教連等が計画して実施する以下の研修会等の実施
 - ・初任者研修、教務主任研修
- 地教委、地教連等の長期休業期間等における動物飼育担当教員等を対象とした研修会の実施
 - ・学校飼育動物等担当教員研修会
- 生活科、理科、総合的な学習の時間等の教

科等研に係る研修会の実施

d 研修会実施の手順

- ① 教育事務所で実施する研修計画への動物飼育に関する研修会の位置づけ
- ② 「学校飼育動物等担当者研修会」開催についての地教委・地教連への働きかけ
- ③ 研修会等の決定に伴う獣医師との連絡・調整
- ④ 研修会等の期日・内容等の決定、研修計画への位置づけ

(2) 獣医師会の対応

研修会後、獣医師会では、学校から相談があつた場合に快く相談を受け付ける動物病院を相談窓口としてお知らせしています。

実際にはどのくらい研修会が開催されることになるのか、教育事務所、地教委ごとの温度差もありますからわかりませんが、県教委が強力にバックアップしてくれる信頼関係が築かれてきていますので、焦らずしっかり進んでいきたいと考えています。

今後このような研修会、学校での助言指導の機会が増えてくれれば、獣医師の人材育成が獣医師会に課せられた課題となってきます。そのためにも本研究会の果たす役割は大きなものだと考えます。

また、福岡県では動物愛護推進協議会が平成14年2月に設立され、動物愛護の視点からの学校へのアプローチもなされています。子供たちの人格形成に深く関わる動物飼育と、飼育される動物の愛護の問題は、獣医師にとっても難しい問題です。それを整理されないまま教育現場に持ち込み混乱することがないようにするのも獣医師の仕事の一つであり、開業獣医師と愛護行政に携わる獣医師の協力が不可欠だと考えます。

私たち獣医師は日々動物の命と向き合い、そのはかなさ、もうさ、時には思いがけない強さに一喜一憂しながら診療や動物行政に携わっています。だからこそ、命に実感に乏しい現代の子供たちに、その思いを伝えたいと思っています。しかし、獣医師の力だけでは思いは空回りするだけです。研究会のみなさまの幅広い力を借りしながら、福岡県獣医師会は子供と動物を暖かく育んでいきたいと考えています。

(福岡県獣医師会)

[参考資料]

アンケートの設問と集計結果

() 内の数字は、記入されている実数。回答者は 125 名だが、設問ごとに無回答や複数回答がある。尚、「その他」の記入や、欄外への記入内容は似通った物をまとめて報告する。
@現在の動物飼育の有無（飼育施設、教室内飼育を含む。）飼育している（120）、飼育していない（3）、把握できていない（0）

1. 飼育動物の飼育内容を教えてください。

種類	ウサギが最も多く、次にニワトリ（ニワトリとチャボやウコッケイ）、アヒル、アイガモが多かったです。他、クジャクや白鳥、ヤギ。小型の哺乳類では、ハムスター（教室内、廊下）
飼育数	飼育数は、学校によりまちまちだがウサギやニワトリの多数羽（匹）飼育が目立った。ウサギを 20 匹以上飼育（15 校）、40 匹以上（3 校）。ニワトリでは 20 羽以上（4 校）。多種類の動物を飼っている場合、全体の飼育数はかなりの数になる。この飼育数の多さが、以下の設問での問題点につながっているようだ。
飼育場所	飼育舎にウサギやニワトリの合同飼育が多い。117 校と回答者のほとんどの学校に飼育舎があった。教室内飼育（11 校）。廊下や玄関脇などの教室外飼育（18 校）。その外、水槽や池でのカメや魚類の飼育が見られ、ビオトープの完備された学校（1 校）や、実習田に合鴨農法（2 校）などがあった。

2. 動物飼育の目的は何ですか？

情操教育として（93）、以前からそうされていたから（62）、教材として（55）、鑑賞・愛玩用として（14）、その他（11）

中には、「命の教育」と強調された方が 2 名いたが、「以前から・・・」も、多くみられこれが現実に近いように思われる。

3. 飼育は誰がしていますか？

児童（95）⇒飼育委員会等（73）

固定学年（13）：（4・2 年生）

飼育担当の先生（66）、管理職の先生（8）、その他（35）

この調査時期は鳥インフルエンザの影響で、児童が鳥類から遠ざけられていた様子が見られ、「遠ざけることが続いて、動物と関わる気持ちが遠のいている」と心配する意見があった。それでも時間の経過とともに、少しずつ児童が世話を関わり始めているようだ。飼育委員は 5、6 年生が多いが、1 年生と一緒に学校（1 校）や、3、4 年の中級学年が主体の委員会（18 校）、1、2 年生担当（6 校）、全校で活動している学校（4 校）などがあった。夏冬の長期休暇を含む休日の世話は防災上、代表勤務の先生が多く、次に警備や校務が担当している。保護者や地域のボランティアの方は、そう多くはなかった。

4. 現在、飼育をする中で困っていることはありますか？

長期休暇中の管理（75）、えさせ代（50）、飼育児童の衛生面（46）、飼育動物が出産で増える（42）、飼育施設の修理（40）、飼育動物の異常（24）、治療費（1）、動物が持ち込まれる（4）、その他（25）

113 名の方が困っていると答え、50 名が 3 項目以上をあげた。餌を農園で栽培している学校もあったが、多頭飼育では餌の手当に苦労している。児童が持ち寄る学校も数校有った。

5. 飼育動物に異常が見られたときはどのように対応していますか？

自分達でどうにかしている（56）、ほとんど無処置で様子を見ている（32）、獣医師に相談または診察してもらう（28）、その他

設問 7 以下の解答と関連するが、予算を考慮して、まずは「自分達でどうにかして」が多くみられている。なお、「異常を見る事が無い」と答えたのは、殆どが少数飼育の学校であった。

6. 飼育動物が出産などで増えてしまった場合の対応はどのようにしていますか？

もらってくれる人をさがす（59）、増えたままで飼育を継続する（54）、増えない様に飼育形態を変える（31）、不妊手術を考えている（5）、その他（10）

「その他」の回答には、既に不妊手術をしている学校や少数単性飼育がある。「増えたままで飼育を継続する」「もらってくれる人をさがす」と答えたほとんどの学校がかなりの多頭飼育であり、数を減らせずにそのまま継続していると思われる。学校間での交換等の実現は少ない。

7. 飼育に関するえさせ代や治療費などはどれくらいありますか？

1 ヶ月 5 千円以内（62）、1 ヶ月 1 万円以内（13）、ぜんぜん無い（5）、1 ヶ月 1 万円以上ある（4）、その他（38）

平成 15 年に実施した獣医師会内の調査や各方面からの話からもこれが現実だと思われる。

中には1ヶ月1万円以上ある学校が4校あったが、この半分は多頭飼育でのえさ代にかかると感じている。餌代だけは確保するけど治療費までは無いのが現実、と推測される。

8. そのお金はどこから出ていますか？

学校の雑費などの予算（59）、教育委員会から（30）、保護者会から（14）、飼育動物名目の予算（12）、担当の先生のポケットマネー（3）、その他（13）

どの学校にも「飼育動物名目予算」が組まれるようになれば、現場もずいぶん楽になるだろうと感じたが、「雑費から」が最も多く全体の1／2で、「飼育動物名目」は全体の1／10であった。中には「市議会議員が夏休みに飼育動物のお世話を手伝って大変な現状を知り、議会で市の教育委員会に質問して、良い回答が得られ治療費が出る様に成了た。」というのも見られた。なお、担当の先生の負担の多くは教室内飼育の餌代である。「校友会費」からや「餌を現物寄付」と答えも見られた。

9. 飼育動物の事で相談できる方はいますか？

本などを参考にしている（43）、いなくて困っている（30）、校内の詳しい先生（25）、近くの獣医師に相談する（23）、近所の詳しい人（12）、その他（17）

重複回答だが、「校内の詳しい先生」「本など…」と答えたのは59名で、全体の1／2になる。

また1／4が「相談する人がいなくて困っている」と回答している。今回のアンケートは講演会後だったので、「学校と獣医師会との連携が取れる」と感じ、「今まで獣医師会がこのような活動をしている事を知らなかった」「獣医師に相談できる体制ができると助かる」との意見が多く見られた。

10. 今後、獣医師会に対してどのような活動を期待しますか？

飼育に対するアドバイス（94）、飼育動物の健康管理・治療（82）、子供達への飼育指導（60）、ゲストティーチャーとして授業支援（55）、教職員に飼育の話を（40）、期待しない（0）、その他（6）

この講演会後調査のためか、「期待していない」が（0）だったことに大変ホッとしている。実際には、獣医師が「ゲストティーチャー」や「職場体験の受け入れ」など、地域と関わりを持つことが増えて来ており、「もっと獣医師を利用して」「何かお手伝いできることは？」と、獣医師会員の意識も高まっている。しかし、中には福岡県獣医師会会員の中にも「面倒だ」「そこまでしなくても良いと思うけど」と言う会員も少なくないのは事実であり、よい連携を作っていくのは、これからだと考えている。

